

日本における 2×4建築の普及

B・C州林産業審議会理事長

ドナルド・ランスケール

日本は、これまで、カナダから柱と梁で作る在来の木造住宅に使う角材（約九インチ角）や、いろいろなサイズに再加工できるもっと大きな角材を輸入してきたが、一九七三年になって、ツーバイフォー（2インチ×4インチ）規格の材料

を用いた工法に対する関心が急に高まった。

その年、プリティッシュ・コロンビア州林産業審議会（COFI—コフイ）のメンバー、木材専門家、建築専門家からなる市場視察団が、初めて日本を訪れ、一連の説

明会を開いた。その結果、日本の建設業者がツーバイフォーによる枠組壁工法に関心をもっていること、そしてカナダ木材規格（CLS）による木材の輸出に可能性のあることが分かった。そこで、COFIは建設省をはじめとする日本の諸政府機関と話し合いを進め、日本でこの工法の普及を図ることになった。そして翌年早々、COFIは東京に事務所を開設、同時に、建設省および日カナダ大使館の協力を得て、東京都港区麻布で三棟の展示用タウンハウス（連棟式集合住宅）の建設にとりかかった。カナダ人および日本人の大工が共同で建てたこれらのタウンハウスは、枠組壁工法やCLS木材および軟材ベニアの使用について紹介するのがその目的である。

COFIは、当初から、各地でツーバイフォー工法に関する説明会を開いてきた。一九七五年六月には、西部日本でもツーバイフォー工法の普及を図るため、大阪にも事務所が開設された。

日本の建設業界の一部では、COFIが普及活動を始める前から、ツーバイフォー工法に関心をもっていたが、こうした活動がだんだん認められ、より多くの人々がこの工法に着目するようになった。一九七四年には、日本の建設業界から一三二〇人が、そして翌年は一二九二人がカナダの建築法および材料について視察・研究するため、バンクーバーのCOFIを訪れている。

建設業者にとって、ツーバイフォー工法にはいくつかのメリットがある。まず、在来工法と同じかまたはそれより安い価格で、より良質の住宅が建てられるとい

うこと。在来工法より工期が短くてすむこと。大工も短期間で訓練できること。在来工法のような特別な技術や道具を必要とする接合がないため、建設現場で簡単に動力機械が使えること——などである。

ツーバイフォー住宅は、風と地震に対して非常に強い。このことは、台風と地震の多い日本において大きな魅力である。在来の住宅より耐火性にもすぐれている。また断熱材を使用しているため、日本式の住宅よりはるかに暖房しやすい。さらに、在来の住宅と同じく木造であるため、日本の大工にとっても、あるいは住む人にとっても親しみやすい。

日本におけるCOFIの目的は、ツーバイフォー建設を通じてカナダ木材規格（CLS）の木材に対する市場を開拓することにある。この観点から、COFIでは、建築会社や建築現場を訪ねて、枠

